



平成 23 年 4 月 19 日
岡 山 大 学

作物生産に関するケニアとの国際共同研究プログラム

岡山大学資源植物科学研究所（植物研）では、全国共同研究拠点として「植物ストレス科学研究」を通じた作物の研究を進めています。拠点事業の一環として、日本学術振興会「アジア・アフリカ学術基盤形成事業」により、平成22年度からケニアのジョモケニアッタ農工大学(JKUAT)との国際交流事業を行っています。日本（岡山大学）が持つ有用な作物や遺伝子リソース、作物栽培技術を生かし、東アフリカでの「次世代作物開発」を目指すため、平成23年度は JKUAT の大学院生・研究者5名が来日し、岡山から3名が先方へ派遣される予定です。

【プログラム】日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業

「東アフリカにおける作物ストレス科学研究ネットワーク拠点形成と次世代作物の開発利用」

日本側コーディネーター：岡山大学教授・山本洋子 期間：平成22～24年度

相手国側拠点機関：ケニア・ジョモケニアッタ農工大学

（参考ウェブ：<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/pssnet/international/kenya/index-j.html>）

アフリカでは食糧不足が深刻化しつつあり、ケニアでは2009年2月にキバキ大統領が食糧不足の窮状を緊急発表しています。岡山大学は、1980年代にジョモケニアッタ農工大学(JKUAT)の設立にも関わり、大学間交流協定による交流実績があります。これらの実績を基盤に、上記のプログラムでは、JKUATにおける作物ストレス科学共同研究を進めるプラットフォーム作りを行うことになりました。植物研・農学部などが持つ世界有数の研究リソース・技術を用いて、不良環境を克服する「次世代作物」の開発利用をアフリカで目指すための技術習得を目指したケニア大学院生・若手研究者の受け入れが始まります。

【平成23年度の交流事業】

- ・ ケニア側研究者の受け入れ（5名）
- ・ ケニア派遣（岡山大学、くらしき作陽大学教員計3名）
- ・ 国際シンポジウム開催（10月、倉敷芸文館）

※参考

【平成22年度の交流実績】

- ・ ケニア側研究者受け入れ（2名）
- ・ ケニア派遣（岡山から8名）
- ・ 国際シンポジウム開催（昨年11月、ケニア）

<お問い合わせ>

岡山大学 植物研・ケニア共同研究担当

・坂本 亘

（電話番号）086-434-1206

（FAX番号）086-434-1206

（Email）saka@rib.okayama-u.ac.jp



国際シンポジウムの開催
（昨年11月、JKUATにて）



THE FIFTH SCIENTIFIC, TECHNOLOGICAL AND INDUSTRIALISATION CONFERENCE
THEME: SCIENCE, TECHNOLOGY AND INNOVATION FOR INDUSTRIALISATION AND SUSTAINABLE DEVELOPMENT
HELD AT AICAD, JKUAT JUA FROM 11TH - 19TH NOV 2018